

鶴田 想人 (つるた そうと)

1989年東京生まれ。東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進センター特任助教。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学、修士(学術)。専門は科学史・科学論。お茶の水女子大学ジェンダード・イノベーション研究所客員研究員、大阪大学社会技術共創研究センター招へい教員を兼任。共編著に『ジェンダード・イノベーションの可能性』(明石書店、2024年)、『無知学への招待』(明石書店、2025年)、共訳にロンダ・シービンガー『奴隷たちの秘密の薬』(工作舎、2024年)がある。

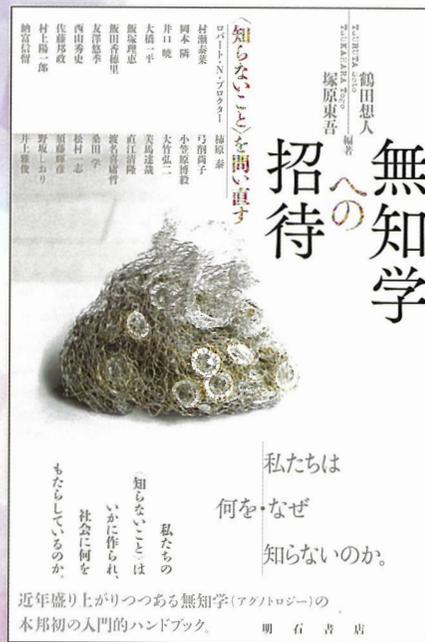
選書者からひと言

フェイクニュースや陰謀論の跋扈する現代、私たちの「知識」は絶えず脅かされています。歴史を振り返っても、「知識」はしばしば失われ、意図的に破壊されてきました。私たちの〈知らないこと〉がいかに作られるのかを問う「無知学」は、2000年代にアメリカで誕生し、近年日本でも注目されています。「無知」について考えることは、私たち自身とその社会をよりよく理解することにつながるはずです。

今回の選書では、広い意味で無知学に関連する書籍のうち、読みやすく手に入れやすいものを選びました。この他にも、邦訳のある無知学の古典的著作として、プロクター『がんをつくる社会』、シービンガー『植物と帝国』、オレスケス&コンウェイ『世界を騙しつづける科学者たち』などがあります。また、『現代思想』2023年6月号(特集:無知学/アグノトロジーとは何か)やプロクターのマニフェスト論文「無知学」(『思想』2023年9月号)も、日本語で読める無知学の基本文献と言えるでしょう。やや専門性が高いため今回の選書からは外したフリッカー『認識的不正義』とミルズ『人種契約』も、重要な無知の理論書です。興味を持たれた方は、ぜひこれらの本もお手に取ってみてください。

〈知らないこと〉を 考える 「無知学」の世界

編著者 鶴田想人氏 選書フェアブックリスト





無知学への招待

〈知らないこと〉を問い直す

鶴田想人、塚原東吾 編著

私たちは何を、なぜ「知らない」のか。この問いが社会の見え方を変えてくれる。無知学の理論から事例までを収めた、本邦初の入門書。

● 定価2,970円 四六判/明石書店/2024 ISBN 978-4-7503-5895-6

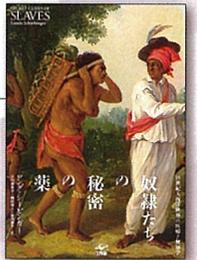
奴隷たちの秘密の薬

18世紀大西洋世界の医療と無知学

ロンダ シービンガー 著/小川眞里子、鶴田想人、並河葉子 訳

カリブ海を舞台に繰り広げられる、ヨーロッパ人と奴隷との薬草の知識をめぐる駆け引き。「秘密」は奴隷たちの交渉材料でもあった。

● 定価4,950円 A5判/工作舎/2024 ISBN 978-4-87502-568-9



ジェンダード・イノベーションの可能性

小川眞里子、鶴田想人、弓削尚子 編著

女性不在の科学が生んだ知の歪み。その構造を可視化し、変革へ向かうための道筋を示す。ジェンダー視点で科学技術を問い直す挑戦の書。

● 定価2,970円 四六判/明石書店/2024 ISBN 978-4-7503-5799-7



人新世とは何か

〈地球と人類の時代〉の思想史

クリストフ・ポヌイユ、ジャン=バティスト・フレソズ 著/野坂しおり 訳

人間活動が地球を不可逆的に変えてしまう「人新世」。それは「無知新世」でもあるのではないかという、問題提起の書。

● 定価3,520円 四六判/青土社/2018 ISBN 978-4-7917-7046-5



抑圧のアルゴリズム

検索エンジンは人種主義をいかに強化するか

サフィヤ・U・ノーブル 著/大久保彩 訳/前田春香、佐倉統 解説

検索結果は本当に客観的なのか。アルゴリズムが人種差別を再生産する仕組みを暴き、デジタル社会の盲点を突く警告の書。

● 定価3,080円 四六判/明石書店/2024 ISBN 978-4-7503-5686-0

書物の破壊の世界史

シュメールの粘土板からデジタル時代まで

フェルナンド・バエス 著/八重樫克彦、八重樫由貴子 訳

「本を燃やす人間は、やがて人間も燃やすようになる」。詩人・ハイネの警句が重く響く、数千年にわたる人類の知の破壊の通史。

● 定価3,850円 B6判/紀伊國屋書店出版部/2019 ISBN 978-4-314-01166-2



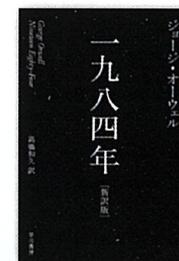
ポストトゥルース

現代を考える基本書

リー・マッキンタイア 著/大橋完太郎 監訳/居村匠、大崎智史、西橋卓也 訳

「ポストトゥルース」とは何か。事実よりも感情や政治的信念が優先される、「真実以後」の時代を読み解くための基本書。

● 定価2,640円 四六判/人文書院/2020 ISBN 978-4-4090-3110-0



一九八四年 (新訳版)

(ハヤカワepi文庫)

ジョージ オールウェル 著/高橋和久 訳

「無知は力なり」。真実と自由を奪われた世界で、人間は何を失うのか。全体主義を描いた不朽のディストピア小説。

● 定価990円 文庫判/早川書房/2009 ISBN 978-4-1512-0053-3



知ってるつもり：無知の科学

(ハヤカワ・ノンフィクション文庫)

スティーブン・スローマン、フィリップ・ファーンバック 著/土方奈美 訳

私たちは「知ってるつもり」が多い。しかしそれは「知識のコミュニティ」を生活しているからにはほかならないと説く、目から鱗の1冊。

● 定価1,210円 文庫判/早川書房/2021 ISBN 978-4-1505-0578-3

ソクラテスの弁明

(光文社古典新訳文庫)

プラトン 著/納富信留 訳

知らないことを知らないと思うことこそ、最大の知恵だとソクラテスは説く。西洋哲学はまさにこの「不知の自覚」から始まった。

● 定価990円 文庫判/光文社/2012 ISBN 978-4-3347-5256-9

